

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 53 号

発行日
2025.06. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○何故か「雨男」に似だが、やはり楽しい一時であった！

先日（5月20・23日）、久しぶりに福岡を訪ねた！名目は、高校時代の友人Y君（千葉県在住）に誘われて、「立花山」という山に登ることであった！名前だけは知っていたが、どんな山か、ほとんど知らなかった（調べてもない！）！だが、結局、天候不順で登ることは出来なかった（次の日に予定していた「高良大社」に、旧友5人で行ったが、そこかなりの雨であった！）！実は、昨年も福岡での神社巡りを予定していたが、これもまた、雨のため決行することが出来なかった！いつの間にか、私は、「雨男？」になってしまっている!!

ところで、今回は、「主夫」をしているA君の家に一泊お世話になったのであるが（場所が立花山に近かった）、実に見事な主夫振りであった！私には、とても真似することは不可能である！ちなみに、そのA君とは、3連ちゃんの飲み？ともなったが、最後の日の彼の告白？（初めて聞いたが！）は、何故かグッとくるものであった（もちろん本人が涙してのものであったが！酔い、昔を語ると涙腺は脆くなる！）！今度は、いつ会えるのか？とにかく、A君ありがとう！

また、22日に訪ねたのは、西部の「野方遺跡」の近くに住むMさんの所であったが、彼女が出入りしている資料館での古代史ミニ談議？が、有意義であった！こんな所で、こんな人達が、何の忖度もなく、自由に語らっている！あることがなければ、さらに至福の時でもあったろうが、また機会があれば是非訪ねてみたい！末尾に、今回も、福岡に住む次女にお世話になった！我が子ながら、本当に出来た娘である！5人の高齢者（爺さんばかり）の飲み会、次の日の3人の食事会？（これは、彼女がセッティング！）！本当にありがとう！

○学校を、そして、子ども達を見限る？教師達!!

昨日（5月30日）、卒業生のN君（小学校教師。以前にも取り上げたことがある！）から、思いもよらない電話があった！過日の、私の誕生日祝い？にも顔を見せていたので、あまり間のない突然の電話に、若干胸騒ぎもしたが、少し相談事があるとのことだったので、珍しい外出から急ぎ我が家に戻って、彼の来訪を待った次第である！

ということで、約束した時間を少し過ぎて顔を見せた彼であったが、最初は、いつもの彼とあまり変わらず、相談事とは、そんなに深刻なものとは思わなかったが、時間が経つにつれ、その重大さが露わになってきた！詳しいことはここでは書けないが、要は、今年一年で教師を辞めたいということであった！あんなに教師に向いている若者はいないかと思っていたので、私の驚きは推して知るべしであったが、何とも切ない話であった！

昨今、教師の休職はともかく、離職者までもが増えていることは知っていたが、まさか彼がその一人になるなんて想像もつかない！聞けば、自分の仕事にやりがいを感じられない！「こんなことを、何でしているのだ？」そんな風に思う気持ちが強くなり、最近、学校に行くことが、非常に億劫にもなっている！子どもとの関係、同僚との関係も、これ以上は、改善は厳しいとも…!!

とかく、こういう状態は、例の「負の連鎖」を生むものであるが、まさしく彼は、そういう連鎖に陥っているわけである！幸い？もう少し様子を見てみるということになったが、果たしてどうなるのか？いずれにしても、何が、彼らをそうさせるのか？哀しい限りである！

○だが、こんな学校（教師・生徒達）があ（い）ることも！

上で、切ない？ことを書いたからではないが、一方で、このことは、是非書いておきたい！NHKの番組であるが（『プロジェクトX』若狭のサバ缶が宇宙へ！廃校寸前の高校が世界初の快挙。2025年5月31日放送、こんな学校、こんな関係が創られているのである！「福井県小浜市の水産高校（↓現在は若狭高校海洋科学科に統合）が、世界初の『高校生による宇宙食開発』に挑戦した軌跡」とあったが、「地元では、最も荒れた学校」と呼ばれ、廃校の危機にあったこの高校。そんな逆境のなか、熱血教師と生徒たちが一丸となって挑んだのは、学校の伝統でもある『サバ缶』を宇宙に届けるという夢のプロジェクト」のことであった！

「かつて地域で、最も荒れた学校」とさえ言われるほど、学校全体に暗い雰囲気漂っていた。生徒達の多くは勉強に関心を持たず、不登校や遅刻・早退が日常化、教師たちも指導に限界を感じていた。学校全体に広がっていたのは、将来への希望を見失った生徒と、それを見守るしかできない教職員の無力感。そんな状況の中で、校内では規律が乱れ、授業がまともに進まないこともあった。荒れた空気に包まれていた学校に、少しずつ光が差し始めたのは、学校が長年誇りとしてきた「サバ缶」の存在。実習の一環として受け継がれてきたサバ缶の製造は、ただの調理ではなく、漁獲から加工・缶詰製造・衛生管理に至るまでを学ぶ総合的な実習であり、地元では『水産高校』といえばサバ缶と言われるほどの定番商品。閉塞感の中にあった学校にとって、宇宙食という非日常的な目標は、ただの製品開発ではなく、『自分たちでもやる』『未来につながる』という希望そのものだった。」

「このプロジェクトこそが、学校にとつての新たな挑戦であり、再生の第一歩：一過性のものではなく、生徒から生徒へ、15年という年月をかけて引き継がれた。…延べ300人以上の生徒がこの開発に携わる…地域に見放されかけていた学校に希望をもたらし、地域と学校の関係を再構築するきっかけにもなった。単なる宇宙食の開発ではなく、『教育は地域と共にあるべきだ』という強い理念が、現実の形として実を結んだ例。…熱血教師、生徒、地域の力がひとつになった青春の記録」とある！（井上）

○戦争が絶えない理由?カントは、如何に彷徨う?

政治と経済が、まさに大変動を起そうとしていることは、今や誰もが疑わない真実!そしてそこに、様々な「国」が、様々な事情・思惑で絡まっている!しかも、それは、のびきならぬ状態にまで!そんなことを想いながらの昨今であるが、今回、私(堂本)が目にしたのは、「東洋経済online」の記事(K大学名誉教授M氏/5月11日配信)である。とりわけ紹介したいのは、次のようなことである!「…平和を望まないものなどどこにもいない!…それは西洋も東洋も同じ!…こんな状態に対し希望をもつためには、自らの平和論を理論家の空想だと規定しつつ、理論の持つ意味をわれわれに伝えた、あのカントの『永遠の平和のために』を今一度再読するべきときかも!カントは、こう断言:戦争を避けるだけの国際法という概念などは意味がなく、平和を実現するには世界共和国しかない!たとえそれが夢想(Dream)に過ぎないとしても、今現在のわれわれの直面する世界にとつて、それが一服の解毒剤となり、そこから解決方法が見いだせるかもしれない!」と。

だが、それから200年以上経つ!何が、どう変わったのか?「夢想」ではなく、実現可能な「理想」まではもっていかねばならないのだが、相変わらず、その位相に留まっている!!では、どうすれば?それは、言うまでもなく、「教育」の力によるしかない!ただし、それは、繰り返すように、学校教育だけではダメである!否、むしろそれは、誰かの都合でおかしなことになる(歴史が、それを証明している!)。必要なのは、そこに生きる生身の人間の思いや生き様と共にある、本当の教育(共育?)である!形としての「世界共和国」は実現不可だとしても、何が、今必要なのは、それぞれの生活の中に顕現している!それを、みんなの力で実現する!それしかないのである!ただし、問題は、それが、誰かの恣意や利得に毀損されることである?それが、残念ながら、「現実の国(社会)」というものでもある?でも諦めたら、それこそ終わりである!!

○往時を思い出すと共に、一抹の寂しさも?

私(堂本)が、ここで敢えて書くのも、多少違和感?があるが、昨日(3日)行われた、今年度3回目の「教育協働アカデミー」のことを取り上げておきたい。実は、今回は、先月福岡で行われた、「第42回中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会」に参加した3人の報告会を兼ねたものであった(ハイフレット方式/若狭公民館との共催)。そのため、参加者も、いつもよりはるかに多く(予期せぬ再会もいくつかあった!)、とても賑やかで、そして、次回以降の発展を確実に予感させるものでもあった!

詳しい報告?は、ここでは出来ないが、ここで記しておきたいことは、MCを務めた井上氏の、喜びと、その背後にある一抹の寂しさ?である!それが分かるのは、私(堂本)だけだということでもあるが、要は、ある時まで、こうした集まりを、時々(のゼミ生達と一緒に、長年やつてきた彼であるが(福岡にも行った!))、今や目の前には、彼らの姿が一切ない!時の流れとは言え、真に寂しき(悔しき?)ものでもあるということである!

〈短歌に託して、梅雨の雨男?あまり影響なく!〉

・雨男? されど再会、いは 関係なし!

梅雨ともなれば みな同じ?

・学校を 見限る教師?

でもそれは 自分自身を 見限ることでも?

・それでも こんな学校 こんな教師・生徒達も!

負けるな教子達!

・昔生達が歌ったという デカンショ節?

諸説あるが、彼らは そに何を?

・今や目の前に 姿がない!

喜びはあるが 寂しく(悔しく?)もある!!

〈特別コーナー「堂本彰夫の古代史旅枕53」〉

○ここからは、九州での隠れた事績を追つてその8—

そこで、ここでは、そのもう一方の「松野連」について、情報をまとめておきたい!ちなみに、「松野連」とは、「日本の古代豪族『系図』によると呉王夫差の後裔、夫差の子・公子景が日本に渡って帰化人となり、筑紫国に至って、肥後国菊池郡に住み、さらにその子孫・松野連が、筑紫国夜須郡松野に住して、姫姓から松野姓に変えたのが始まりという。『系譜系譜』に松野連ノ姫氏の系譜があり、熊襲の酋長・川上嘉帥(取右馬廐)の名や、倭の五王、讃・珍・済・興・武の5人の名も連なる。北部九州に同氏を祖とする氏族の家系が複数存在する。」とある。イキペディア※二つの史料は鈴木真年作成 国史館国会図書館と蔵書(文庫所蔵)!この情報で、どれほどの信憑性があるのかは、もちろん私には分からないが、そこには、かの卑弥呼(刀良)または卑弥尊(多)や白身ノ尊(帝)と目される人物名が記されているわけである!面白いことに、それは、2代目(順)から分岐し、第一系図(本家筋)が「委奴ノ怡士ノ伊都」(卑弥呼系)、第二系図(分家筋)が「邪馬台国?」(白身ノ尊系)となっていることである!ただし、これは、上記している、明治維新期の系譜研究家「鈴木真年」の解釈のようであり、その真偽は、当然私には分からない!ちなみに、この「松野連氏」は、最初に述べたように、かの「開化天皇」そして、「老松(神社)の「木ノ紀ノ姫」氏」と直結していることは言うまでもない!!

いずれにしても、「松野連氏」は、かの呉王夫差の子孫であり、彼らが、紀元前五世紀頃、熊本菊池方面に達し、一部(分家)が熊ノ球磨に残り、一部(本家)が北部九州に移動しているということである!!かなりの妄想かもしれないが、「奴」という表記(委奴ノ御奴等)には、ひよっとしたら彼らが関係しているかもしれない?また、『魏志』には、邪馬台国と狗奴国は、「秦より和せず」とあるが、これもまた、彼らが関係しているということかもしれない?とにかく、こちら側からの追求も、是非求められたい!ということもある!(つづく)

〔編集後記〕記事編成は、内容よりも難しい?予め準備していることがその因であるが、なかなかタイムリーにならない!だが、「来客」や「旅」の場合はそうはいかない!やはり、その句?というものがある!追伸:梅雨が明けた!(井上ノ堂本)